

ニホンジカ被害防止に向けた取組について

岩手南部森林管理署遠野支署 発表者 森林官 神 克彦
チーム員 吉永 雄弘
チームリーダー 主任森林整備官 梶本 愛
アドバイザー 森林技術指導官 尾留川 修

1 はじめに

岩手南部森林管理署遠野支署は遠野市及び花巻市に所在する国有林約3万6千haを管理し、天然林約36%、人工林約57%で特にカラマツの割合が多いことから古くから林業が盛んな地域です。遠野地域では、ここ数年急激にニホンジカ（以下「シカ」という。）の生息数が増え、造林木の食害、下層植生、生態系及び農林業への被害防止対策が急がれています。

東北森林管理局では、シカによる農林業被害対策を講じるための基礎資料として、平成26年度から生息域や自然植生への影響等についてのチェックシート調査に取り組んでいます。集計した調査結果は、県や森林総研などへ共有するとともに、局ホームページでも確認できます。

岩手県の公表資料によると、平成30年度秋時点のシカの推定個体数は10万7千頭とされています。また、東北森林管理局が行った早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況・森林影響等調査（糞粒法）結果では、平成23年度の生息密度と比較して、平成29年度は5.5倍、令和3年度は15.7倍に増加しています（表1）。

表1 早池峰山周辺における糞粒法による生息密度の比較（早池峰山周辺12,000haを対象）
（出展：令和3年度早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況調査報告書（東北森林管理局））

年度	平成23年度	平成29年度	令和3年度
頭/km ²	1.5	8.2	23.6
—	基準	5.5倍	15.7倍
早池峰山周辺総数	約180頭	約984頭	約2,832頭

表2は遠野市におけるシカ捕獲頭数の推移です。令和2年度から有害捕獲で2千頭を超えるシカを捕獲し、令和4年度は有害捕獲と狩猟捕獲を併せ、5,279頭を捕獲しています。また、有害捕獲の74.3%はワナによる捕獲となっています。

表2 ニホンジカ捕獲頭数の推移 ※市有害鳥獣（4～10月のみ） 遠野市よりデータ提供

年度	H24	H26	H28	H30	R2	R4
狩猟捕獲数	543 頭	1,396 頭	1,071 頭	1,067 頭	1,911 頭	2,668 頭
有害捕獲数	332 頭	1,015 頭	951 頭	1,425 頭	2,371 頭	2,611 頭
うちワナ捕獲	14 頭	485 頭	595 頭	1,040 頭	2,064 頭	1,940 頭
うち応援隊	—	88 頭	98 頭	116 頭	427 頭	382 頭
ワナの割合	4.2%	47.7%	62.5%	73.0%	73.7%	74.3%

シカは、森林生態系にも大きな影響を与えています。写真1及び2は、シカによる森林被害の前後を比較した写真です。被害後の森林は、シカの首が届く範囲に植生がほとんどなくなっているのがわかります。



写真1 被害前の森林（平成29年）



写真2 被害後の森林（令和4年度）

写真3及び4は、シカの被害状況の写真です。苗木の先端を食べられたり、樹皮剥ぎにあってしまうと、樹木は健全に成長できなくなる可能性があるため、対処が必要です。



写真3 カラマツの樹皮剥ぎ状況



写真4 広葉樹の樹皮剥ぎ状況

そこで遠野支署では、様々なシカ被害対策を行い、被害防止に努めています。早池峰山での植生保護柵設置、幼齢木保護チューブ設置、シカ捕獲応援隊でのワナ設置、造林事業請負でのシカ食害対策剤散布、シカ捕獲連携事業での林道除雪による捕獲支援等を実施しています。

シカ被害対策には、個体数管理、被害防除、生息地管理の3つの柱があるとされています。これまでの取り組みを被害対策の考え方に当てはめると、早池峰山での植生保護柵設置、幼齢木保護チューブ設置、造林事業請負でのシカ食害対策剤散布は被害防除に、シカ捕獲応援隊でのワナ設置、シカ捕獲連携事業での林道除雪による捕獲支援は個体数管理に該当します。

本日はこれらのうち、幼齢木保護チューブ設置とシカ捕獲応援隊の取組結果について報告します。

2 取組

まず、幼齢木保護チューブ設置について説明します。住吉国有林19林班へ1小班において、令和4年度に春植、少花粉のスギコンテナ苗を植栽した4.54ha、10,900本のうち、シカ被害が少なかった2.00ha、4,800本に試験的に保護チューブを設置しました。当初は、小班の林縁に設置することを検討しましたが、植付け後すぐに食害があったことから、被害のない健全木に設置することとしました。

融雪後、保護チューブの状態を確認したところ、保護チューブが破られ、中の苗木の先端が食べられているものが多くあったため(写真5)、令和5年6月に被害状況調査を実施しました。調査結果は、シカによる食い破りが223本、全体の4.6%。シカによる引き倒しが138本、2.9%。雪の影響を受けた可能性があるものが36本、0.8%。その他が273本、5.7%でした。

調査後、被害拡大を防ぐために、食害にあっていない造林木に保護チューブの素材を強

化したものを400本設置し、また、食い破れない保護チューブを守るため、二重保護ネットを1000本設置しました（写真6）。二重保護ネット等の状況調査は令和6年度の融雪後に行う予定です。



写真5 保護チューブ内の食害状況



写真6 保護チューブ強化状況

次に、シカ捕獲応援隊の取組について説明します。遠野市では、「ニホンジカ捕獲応援隊制度」を発案し対策に取り組んでいます。「市の講習を受講することで、狩猟免許を所持しない者が補助者として捕獲に従事できる」という制度で、実施隊は見回りの負担が軽減されること等、応援隊は狩猟免許を取得しなくてもシカの捕獲に協力できること等、双方の課題解決に資する制度となっています。

遠野支署では、遠野市内のシカ被害対策への協力を目的として、「ニホンジカ等被害対策協定」を締結している遠野市及び遠野猟友会と協議し、令和4年度から国有林ニホンジカ捕獲応援隊（国有林の見回り隊）の認定を受けた支署職員及び請負事業体職員がシカ捕獲補助者として取り組んできました。

写真7は、令和5年度の講習会において、ワナの構造、連絡体制及び安全対策等について講習をうけている状況です。鉤塩に誘引されたシカがワナの奥に設置されたワイヤーに触れることで扉が閉じる仕掛けになっています。

令和5年度のワナの設置箇所は事前に踏査を行い、森林環境保全整備事業地への通勤経路としました。請負事業体職員の通勤時にワナを確認してもらい、シカがかかっていたら遠野支署へ連絡、支署から遠野猟友会へ連絡をし、支署職員立会いのもと電気による止め刺しを行い、指定場所へ埋設する、という内容となっています。

3 結果

令和4年度のシカ捕獲応援隊では、シカを捕獲することはできませんでした。原因の一つは給餌期間が8日間と短かったことにあるのではないかと、という検討結果から、令和5年度は給餌期間を112日間、わなの稼働を49日間行いました。結果として、令和5年度はオスジカ2頭、幼獣1頭、計3頭の捕獲に成功しました（写真8）。



写真 7 遠野市主催の安全講習会



写真 8 捕獲されたニホンジカ

4 考察・結論

シカ捕獲応援隊は、シカの警戒心を解くために給餌期間を長くしたところ捕獲できたことから、令和6年度も給餌期間を長くして実施したいと思います。幼齢木保護チューブによる防除箇所において、造林木をシカから「保護」するだけでなく、その周囲にワナを設置するなどし、保護と捕獲の両面で被害対策に取り組みたいと考えています。

個体数を減らすためにはメスジカを捕獲することが効果的であるとされています。メスジカは塩水に誘引されるという研究結果があることから、今後、バケツを用いた塩水誘引によりメスジカを捕獲できるよう工夫できればと考えています。

シカ捕獲応援隊は、遠野市と遠野猟友会とのニホンジカ等被害対策協定に基づき、今後も継続して活動していく考えです。そのほかの取り組みも継続し、被害防止につなげていきたいと考えています。

5 参考文献等

ニホンジカ捕獲頭数の推移 遠野市よりデータ提供

PRESS RELEASE 森林総合研究所九州支所「分布の中心で、メスジカを捕らえる」

森林総合研究所九州支所 「塩水でメスジカを誘引する」